

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3272200597		
法人名	特定非営利活動法人 ふるさと工房		
事業所名	グループホーム和水屋		
所在地	島根県隠岐郡隠岐の島町中村森四、1542番1		
自己評価作成日	平成22年10月23日	評価結果市町村受理日	平成23年1月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	ncllp-//kounyou-c.tukushi-shimane.or.jp/in/kaigoin/informationPublic.do?JCD=3272200597&SC
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	平成22年10月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

★夜間勤務の職員を2名配置し、夜間入浴や不穏時のゆったりとした相談・防災などに対応している。
 ★外出や一時帰宅・買い物などしたい時には付き添いのもと、自由に出来るように配慮している。
 ★独自の記録様式で、出来事や客観的内容の記録ではなく、主観的・気づきに注目した内容を記録するように心がけている。
 ★生活の中の催し物を行事として捉えるのではなく生活の一部として行っている。
 ★基本的な献立はあるものの、近所からの差し入れや安売り商品・話題の中での食べたい物がある、場合などには、随時変更し入居者の地域のニーズに応じて提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域密着型サービスとしての明確な理念をもち、行政、地域住民などと一緒に利用者の生活を支えることに努めているホームである。職員は利用者の表情や行動から思いを知り、ふるさと訪問や知人宅の訪問など日常的に戸外に出かけ利用者が笑顔で暮らせるよう支援している。夜勤スタッフを2名配置し、入浴や利用者への対応、防災など、利用者を尊重した体制をとっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスとしての理念を職員全員で作り上げている 必要に応じて見直しを行っている。	職員全員で理念の見直しを行いながら、常に理念が日々のケアに反映されるよう意識しながら実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	気軽に声を掛け合えるような つきあいをさせて頂いている。納涼祭等で地域の方々を招き交流したことで、親交も深くなり防災関係等の協力体制も整ってきた。	地域の活動に参加したり、納涼祭などの事業所の行事とおし利用者がこれまでの生活ができるように、地域とのつきあいを大事にした取り組みをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月のホーム便りを地域に配布したり事業所の行事や認知症ケアの講演会等に参加して頂いたり地域の様々な研修に参加するようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度開催している 会議での意見や助言は事業所の行事や日々のケアに反映している。	行事を兼ねて開催することがあるが沢山の地域の人の出席があった。避難訓練についても討議し、夜間想定訓練や地域住民の参加の必要性など積極的な意見が出され運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域で行う講座や講演会等を共に立案したり認知症ケアの実態や方向性について情報提供している。	日常的に担当者と情報交換を行いながら、認知症理解のための講演会の開催など協力して取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回の身体拘束委員会、ミーティングや申し送り等で身体拘束を行わないよう日々のケアを振り返り職員の認識を図っている。	部屋や玄関に施錠はされておらず、職員は会議やミーティングなどでケアを振り返り利用者を尊重した自由な生活の支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	採用時には虐待の禁止について説明している。ケアや対応が尊厳を傷つけないようカンファレンス・職員会議等で定期的に確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各団体が主催する研修会には積極的に参加するようにしている また家族のキーパーソンと連携し家族に対しケアに参加してもらうような関係作りをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や入・退院時には契約内容の確認を行っている 特に入・退院時の不安は大きく、その後の対応について入居者・家族の意向を最優先させている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に職員から見えにくい場所にご意見箱を設置したり、契約時に苦情等の考え方について説明している。またケアプランの見直しの際には積極的に意見を聞いている。	家族がよく訪問されるので、どんな事でも言ってくださいと、聞き取りに努めている。家族と職員は顔馴染みが多く気軽に話してもらっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議・ケアカンファレンスはもちろんのこと、気軽に意見・提案を聴ける体制を心掛けている。	職員と管理者とのチームワークは良好で、管理者は会議以外でも普段の勤務の中で何でも気軽に意見を出してもらえるように配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は、他職員との比較ではなく 個々の職員主体の評価を重視している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員の立場・経験・理解などに応じて実務に支障を来さないよう研修の機会を確保している。また自らが認知症介護の指導者であり、事業所の学習会も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	老施協の在宅部門やGH協会に加入している。また地域では、連絡協議会を発足させ、医療・行政・介護・地域のスタッフで連携・調整し、地域の福祉サービスに関する情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に出来るだけ沢山の情報を収集し、入居時に共有出来る話題を多く持つことで関係を築くようにしている。時には、事前に見学してもらったり体験入居出来るような仕組みも作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の事前調査で入居希望に至るまでの悩みや苦勞を聞くと共に入居意向の希望が何かを話し合っている。時には、事前に見学してもらったり体験入居出来るような仕組みも作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に出来るだけ沢山の情報を収集し、その方に合った支援が出来るよう打ち合わせている。特に家族からの支援が必要な場合は面会の頻度を増やしたり家庭での環境に近づけるよう環境整備を共に考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の趣味・特技・習慣を把握し、個別的に散歩・簡単な家事・裁縫等負担にならないように職員と一緒にしている。また食事の献立も入居者の意見も取り入れながら作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居以降の家族の影響力の大きさについて説明し、ケアや行事に参加してもらえるように負担のない範囲で共に入居者を支えるような雰囲気作りをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩途中で友人宅に寄りお茶を飲んだり、遊びに来てもらったりしている。又、本人・ご家族の希望があれば生家や自宅への送迎をしたり故郷訪問・墓参り・散髪等これまでの生活習慣を継続出来るよう努めている。	希望があれば週何度でも自宅や生家へ出かけたり、ふるさと訪問や墓参りなど積極的に支援している。行事などをとおし孫やひ孫、地域の友人などとの関係も大事にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	作業や家事を共に行い出来ることを助け合ったりしている。又、入居者同士での会話等でトラブルが起きないように見守り支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後でも、ご家族からの要望があれば相談にのったり情報を提供したりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用中。思いや意向が確認出来ない時には、ご家族に情報を得たりその方の表情や生活ぶりに注目し参考にしていく。	職員の気づきを大事にし思いの把握に努めている。困難な場合はドライブ、散歩などで場面を変え、ゆっくり話を聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の関係者からの情報収集や本人の会話や面会に来た家族・友人などからの情報を活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康や精神面・生活ぶりが記録でき共有出来るような記録様式・話し合い体制を作っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・ケアスタッフからの情報を元に介護計画を作成している。	月1回のケア会議で、利用者や家族、職員からの情報をもとに計画を作成している。見直し時にも積極的に家族の意見を聞いている。	今後、家族や関係者が同席して希望や意見を出し合いながら計画を立てることも検討していただきたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	アセスメントシートや月1回のモニタリング等にケアの実践・結果等記録し口頭や連絡帳を用いて、全職員が状況・状態を把握、情報を共有しながら実践に取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族・本人の状況や要望に添えるよう入院した場合、再入居出来るよう90日間居室を確保したり、受診・外泊・墓参り・知人宅訪問等柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人、ご家族の状況や希望に応じ馴染みの暮らしや生活環境が継続でき安心して過ごせるよう努めている。地域連絡会や運営推進会議等で関係団体、民生委員等との情報交換・協力関係を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関はあるが、これまでの経緯や入居前の主治医との関係継続の要望がある場合は応じている。どちらでも良いという場合は、本人のリスクの低い方を優先し助言している。	利用者、家族の希望するかかりつけ医による支援を行っている。緊急時には近くの診療所の医師に診てもらうことを家族に話し納得してもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当事業所に看護職員を配置しており、入居者の健康管理や状態に応じた支援を行っている。又、夜間でも緊急時には看護職員に相談出来るような体制にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ベストな状態で退院出来るよう医療機関に情報提供している。本人の精神状態悪化防止のため早期に再入居出来るよう働きかけたり頻繁に見舞うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や、ご家族の意向を尊重し随時意志確認しながら取り組んでいる。ケースによっては行政・医療機関との連携を密にし柔軟に対応出来るよう努めている。	看取りを経験したことがありスタッフ間で方針を共有している。利用者、家族の希望を尊重しながら行政、医療機関と連携し、最大限の支援をしたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署職員による蘇生法や救急手当等の研修を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣住民の方には日頃から協力依頼しており理解を得て実際に消防署立会いの下近隣住民参加の避難訓練を実施している。	10月に夜間想定避難訓練を実施し地域の人にも参加してもらった。安眠剤服用の利用者もあり、課題もみつかった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々のケアの中で入居者の誇りを傷つけた りプライバシーを損ねていないかミーティ ングで振り返り徹底を図っている。	本人の気持を大切に考えた支援が出来た か、対応や声かけが適切であったかを、ミー ティングで振り返っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	入居者の表情や言葉等から思いを組取れる よう努めている。又、日々の生活の中で選択 肢を用意し入居者が決められるような場面を 作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、急な散歩の 希望や一時帰宅には、それを尊重し個別に 職員と一緒に出かける等対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	化粧品や手鏡など以前から馴染んできた物 を出来るだけ持ち込んでもらっている。美容 院なども行きつけに行ったり、遠い時には送 迎をしたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備 や食事、片付けをしている	入居者の方が自主的に出来ること(調理・盛り 付け等)をしている姿が暮らしの中で見ら れるようになった。食事は職員と入居者が一 緒にテーブルを囲み、旬の食材と一緒に育 てた野菜を使った料理を食べている。	豆の皮むきや盛り付け、刺身作りなど、利用 者が自主的に行える場面がある。献立も利用 者の希望を聞きながらたて、職員も一緒に食 事をしながら和やかな食事場面になるよう配 慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応 じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量のチェックをして いる。体調や精神的に食欲のない時には栄 養状態が確保出来るよう本人の好きなもの や調理法を変えたり工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケア をしている	毎食後に声かけをし歯磨きをして頂いて いる。又、定期的に義歯洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間チェック表等で排泄パターンを把握するようにしている。又、オムツ使用を減らし出来るだけ布パンツや布パンツにパットのみで対応するようにしている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄が出来るようその人に合わせた支援をしている。出来るだけ布パンツやパットを使い、オムツの使用が減っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や野菜・水分を積極的に摂るようにしている。又、体操をしたり散歩や作業など身体を動かすことで自然排便を促すようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夜勤スタッフを2名配置しており、入居者の希望により好きな時間帯に入浴して頂けるように支援している。入浴を拒否される方に対しては無理強いせず入浴したくなるような雰囲気作りに努めている。	夜勤スタッフを2名配置しており、利用者の希望に沿った柔軟な対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠剤には出来るだけ頼らず寝付くまで温かい飲み物を飲みながら談話したり、さびしくて眠れない時には一緒に添い寝したりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況確認表を作成しており職員が内容を把握出来るようにしている。管理を要する方に関しては名前や服薬時を記入し間違いのないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの特技や出来ることを把握し、裁縫・調理・盛り付け等行って頂いている。必ず感謝の言葉を掛けるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	馴染みの店や友人、知人宅に出かけたりしている。季節や天候に応じ、随時ドライブや買い物・散歩等している。入居者より行きたいところの希望があった場合は計画を立てて、時には家族の協力を得て実行している。	散歩、買い物、ドライブ、知人宅の訪問など、日常的に戸外に出かける支援をしている。利用者の状態を見て声をかけ出かけることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し可能な限り本人で管理可能な額のお金を持てるようにしている。事務所保管を強制していない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室で電話出来るようにしている。(携帯電話所持者がいる)また手紙や年賀状はもちろん、孫や子供との小包のやり取りもできる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の方に生けてもらった季節の花を飾ったりしている。テーブルとコタツ・ソファを設置し思い思いに過ごせるようにしている。不快な音や光など出ないようにしているが、家庭での暮らしの音は気にしないようにしている。	玄関にはベンチが置かれ、戸外で過ごしたり、近所の人とも交流できる。季節の花を飾ったり、コタツ、ソファなどで自由に過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先のベンチを利用されたり、入居者同士互いの居室を行き来したりと思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ自宅で使い慣れた物を居室に配置したり化粧品や家族の写真等飾れるように家族にアドバイスしている。なるべく入居前に情報収集し、入居日から安心して馴染めるように取り組んでいる。	居室入り口には利用者の家の屋号がかけられてあり、家族の写真やカレンダー、化粧品など、自由に持ち込んでもらっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の状況に合わせ安心かつ出来るだけ自立して暮らせるよう環境整備に努めている。		